日本語

取扱説明書（基本編）

- 本機をお使いになる前に、必ず「安全上のご注意」（J-2ページ）と「使用上のご注意」（J-6ページ）をお読みください。
- 本書は、本機の設置方法、基本的な操作のしかた、およびランプ交換方法について説明しています。本機のより詳しい操作方法については、付属のCD-ROMに収録されている取扱説明書（拡張編）をご覧ください。

目　次

安全上のご注意

このたびは本製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
本書は、お読みになった後も大切に保管してください。

絵表示について

この取扱説明書および製品での表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ **危険**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠ **警告**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
⚠ **注意**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は「気を付けるべきこと」を意味しています。
（左の例は感電注意）



⃠ 記号は「してはいけないこと」を意味しています。
（左の例は分解禁止）



●記号は「しなければならないこと」を意味しています。
（左の例は電源プラグをコンセントから抜く）

本機の使用上のご注意

⚠ 警告

● **煙、臭い、発熱、大きな音などの異常について**

煙が出ている、へんな臭いがする、大きな音が出てランプが消えたなどの異常状態のまま使用しないでください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行ってください。

1. 電源プラグをコンセントから抜く。
2. お買い上げの販売店またはカシオテクノ・サービスステーションに連絡する。

● **故障したまま使用しないでください**

本書に従って正しく使用しても、画面が異常だったり、音が鳴らないなどの故障状態のまま使用しないでください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行ってください。

1. 電源を切る。
2. 電源プラグをコンセントから抜く。
3. お買い上げの販売店またはカシオテクノ・サービスステーションに連絡する。

● **電源コードについて**

電源コードは使い方を誤ると、火災・感電の原因となります。次のことは必ずお守りください。

・電源は、指定された電源電圧（日本国内では交流100V）のコンセントを使用する
・1つのコンセントにいくつもの電気製品をつなぐタコ足配線をしない

● **電源コードについて**

電源コードは使い方を誤ると、傷がついたり破損して、火災・感電の原因となります。次のことは必ずお守りください。

・重い物をのせたり、加熱しない
・設置時にラックや壁などにはさみ込んだり、コードの上を敷物などで覆わない
・加工したり、キズつけたり、無理に曲げない
・ねじったり、引っ張ったりしない

● **電源コードについて**

濡れた手で電源コードや電源プラグに触れないでください。感電の原因となります。

● **本機は、購入された国でご使用ください**

本機に付属の電源コードは、購入された国用のものです。購入された国以外でお使いになる場合は、必ずその国の規格・電源電圧に適した電源コードをご使用ください。

● **水、異物はさける**

本機に水のかからない状態で使用してください。水がかかると火災や感電の原因となります。

本機の上に花瓶など液体の入ったものを置かないでください。水がかかると火災や感電の原因となります。

水、液体、異物(金属片など)が本機内部に入ると、火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行ってください。

1. 電源を切る。
2. 電源プラグをコンセントから抜く。
3. お買い上げの販売店またはカシオテクノ・サービスステーションに連絡する。

● **分解・改造しない**

本機を分解・改造しないでください。内部には高圧部分が数多くあり、感電・やけど・けがをする原因となります。

内部の点検・調整・修理はお買上げの販売店またはカシオテクノ・サービスステーションにご依頼ください。

● **落とさない、ぶつけない**

本機を落としたときなど、破損したまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行ってください。

1. 電源を切る。
2. 電源プラグをコンセントから抜く。
3. お買上げの販売店またはカシオテクノ・サービスステーションに連絡する。

● **火中に投入しない**

本機を火中に投入しないでください。破裂による火災・けがの原因となります。

● **点灯中にレンズや吸気口/排気口をのぞかない**

点灯中にレンズや吸気口/排気口をのぞきこまないでください。強い光が目に入り視力障害などの原因となります。

● **吸気口、排気口をふさがない**

吸気口（底面、背面）、排気口（側面）をふさぐと本機の内部に熱がこもり、火災・故障の原因となります。また、使用中に触れるとやけどの原因となります。次のことは必ずお守りください。

・壁から30cm以上離して設置する
・風通しの悪い場所に押し込まない
・布などを掛けない

・じゅうたん・布団・タオルなどの柔らかい物の上や、座部の柔らかいイスなどに置いて使用しない（堅い平面に置いて使用してください）
・たてて使用しない

● **プロジェクターのキャビネットを開けない**

感電の恐れがあります。

● **お手入れの際は、電源を切って電源プラグを抜く**

感電の原因となります。

● **投映中は排気口部が高温になりますので、触れないでください　また排気口部の近くは高温になりますので、プラスチック等の高温に弱い物をそばに置いたり、下に敷いたりしないでください　変形や変色する原因となります**

● **本機の電源を入れる前に、必ずレンズカバーを開く**

投映中はレンズカバーを閉めないでください

● **次の場所での使用はしない**

火災・感電の原因となります
・振動の多い場所
・湿気やほこりの多い場所
・調理台のそばなど油煙が当たるような場所
・暖房器具の近く、ホットカーペットの上、直射日光があたる場所
・その他、高温や低温の所（使用環境は5℃～３５℃の環境内でご使用ください）

● **本機の上に重い物をのせたり、本機の上に乗らない**

火災・感電の原因となります

● **水場や風呂場などの水に濡れるところに置かない**

● **不安定な場所に置かない**

ぐらついた台の上や高い棚の上など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

● **台車などの上で使用する場合**

車輪をロックしてください

● **雷が鳴ったら、電源プラグに触れない**

⚠ 注意

● **電源コードについて**

電源コードは使い方を誤ると、火災・感電の原因となることがあります。次のことは必ずお守りください。
・ストーブなどの熱器具に近づけない
・電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない(必ず電源プラグを持って抜く)
・電源プラグはコンセントの奥まで確実に差し込む
・使用後は本機の電源を切り、クールダウン後電源プラグをコンセントから抜く
・長時間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く
・電源プラグの刃と刃の周辺付近にほこりがたまらないように、コンセントから抜いて、年一回以上清掃する
・本体を移動させる場合は、電源を切り、電源コードを取り外してください

● **大切なデータは控えをとる**

本機に記憶させた内容は、ノートに書くなどして本機とは別に必ず控えを残してください。本機の故障、修理などにより、記憶内容が消えることがあります。

● **投映中にレンズの前に水槽などレンズ効果をもたらす物を置かない**

火災の原因となることがあります

● **投映レンズには手を触れない**

電池のご注意

⚠ 警告

電池は使い方を誤ると液もれによる周囲の汚損や、破裂による火災・けがの原因となります。次のことは必ずお守りください。

・分解しない、ショートさせない
・加熱しない、火の中に投入しない
・新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない
・種類の違う電池を混ぜて使用しない
・充電しない
・極性(⊕と⊖の向き)に注意して正しく入れる

⚠ 注意

電池は使い方を誤ると液もれによる周囲の汚損や、破裂による火災・けがの原因となることがあります。次のことは必ずお守りください。

・本機で指定されている電池以外は使用しない

● **使い切った電池は直ちに本機から抜く**

・長時間使用しないときは、リモコンから電池を取り外しておく

● **電池を廃棄する場合は各自治体の回収方法に従って廃棄する**

ランプについて

⚠ 警告

● **プロジェクターの使用直後は、絶対にランプを取り出さない**

ランプが高温のため、火傷の危険があります。電源を切り、POWER／STANDBYインジケーターがオレンジ色点灯に変わったのを確認後、電源プラグをコンセントから抜き約60分以上おいてから取り出してください。

● **ランプは必ず指定のランプを使用する**

ランプは必ず指定のランプをご使用ください。指定以外のランプを使用すると、火災・故障の原因となります。

⚠ 注意

● **ランプの交換は、電源を切り電源プラグをコンセントから抜く**

ランプを交換する前に、必ず電源を切って電源プラグをコンセントから抜いてください。感電の原因となることがあります。

・ランプが破壊した時はご注意ください。
ランプ破壊時には、ランプハウス内にガラスの破片が飛び散ったり、ランプ内部のガスがプロジェクターの吸気口/排気口から排出されることがあります。ランプ内部に含まれているガスは、水銀が含まれていますので、破裂した場合は十分な換気を行ってください　ガスを吸い込んだり、目に入った場合は、速やかに医師にご相談ください

● **ランプが壊れた時には自分で処理しない**

プロジェクターの光源には、内部圧力の高い水銀ランプを使用しています。ランプが壊れた時には、お買い上げの販売店または最寄りのカシオテクノ・サービスステーションに修理をご依頼ください。お客様ご自身で処理すると、ガラスの破片でけがをしたり、散乱した水銀で被害を受ける恐れがあります。

その他

⚠ 注意

内部にホコリが付着したまま長時間清掃をしないと、火災や故障の原因となることがあります。1年に一度は、内部の清掃(有償)を、お買い上げの販売店またはカシオテクノ・サービスステーションにご依頼ください。

使用上のご注意

ランプ取り扱い上のご注意

⚠ 注意	交換時期を超えて使用すると、ランプが破裂する可能性が高くなります。交換メッセージが表示されたら、速やかに新しいランプと交換してください。

- ランプのガラスの部分に手で触れないでください。ランプの破裂や寿命を縮める原因になります。
- 光源用ランプは消耗品です。ランプの平均寿命は2000時間です。交換表示は2000時間でメッセージが出ますが、ランプの特性や使用環境により、メッセージが出る前に暗くなったり、点灯しなくなることがあります。
- ランプの保証期間は90日間または500時間のいずれか早い方です。
- ランプは内部圧力の高い水銀ランプを使用しています。衝撃やキズ、使用時間の経過による劣化などにより、大きな音をともなって破裂したり、点灯しなくなることがあります。また、ランプの個体差や使用条件によって大きな差があります。
- ランプ交換時期になると、交換メッセージが表示され、ランプのインジケーターが赤色に点滅します。このときは本書記載の交換手順に従い交換してください。
- ランプ寿命到達後、100時間を超えて使用すると、クールダウン後スタンバイ状態になり電源が入らなくなります。

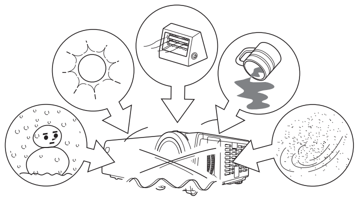
ランプを交換するときのご注意

- ランプ交換時期になると、「ランプの交換時期です。取扱説明書に従い早めに交換してください。」のメッセージが約10秒表示され、ランプのインジケーターが約1秒間隔で赤色の点滅を行います。ランプ交換メッセージが表示されたら、ランプが点灯する状態でも速やかに交換してください。
- 交換用ランプは、専用交換ランプ(YL-31)を販売店にてお求めください。指定のランプ以外は使用しないでください。
- ランプ交換は、電源を切り、POWER／STANDBYインジケーターがオレンジ色点灯に変わったのを確認後、電源プラグをコンセントから抜き約60分以上おいてから行ってください。動作中や停止直後は、ランプカートリッジが高温の為、火傷の原因となりますのでご注意ください。
- ランプは水銀物質を使用しています。ご使用後のランプは、各自治体の規制に従い廃棄してください。
- ランプには、輸出貿易管理令別表第一該当の部品が組み込まれています。ランプ単品で外国に持ち出す場合は、外国為替及び外国貿易法に基づく手続きが必要となる場合があります。
- ランプ交換の際は、交換用ランプ(YL-31)に同梱の専用ドライバーをご使用ください。

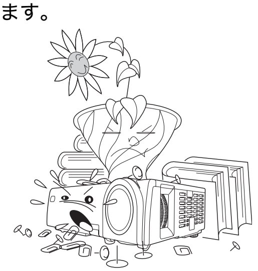
その他のご注意

本機は精密な電子部品で構成されています。データが正常に保持できなくなったり、故障の原因になりますので、以下のことに注意してください

- 次のような場所での使用や保管は避けてください。本機の故障・破損の原因になります。
  - 静電気が発生しやすいところ
  - 極端に高温または低温のところ
  - 湿度の高いところ
  - 急激な温度変化が起こるところ
  - ほこりの多いところ
  - ぐらついたところや傾いた不安定な場所
  - 水に濡れるような場所



- 次のような使用方法は避けてください。本機の故障・破損の原因になります。
  - 高温や低温のところ（使用環境は5℃～３５℃の環境内でご使用ください。）
  - 本機の上に重い物をのせたり、本機の上に乗らないでください。
  - 本機の中に物を落としたり, 入れたりしないでください。
  - 本機の上に花瓶など水が入った物を置かないでください。



● **消耗した電池をリモコンに取り付けたまま長期間放置しないでください。**
電池が液もれすることがあります。液もれは故障・破損の原因になることがあります。

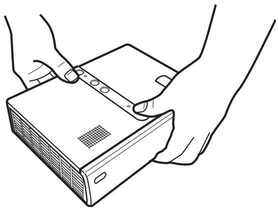
● **お手入れの際は、乾いた柔らかい布をご使用ください。**
特に汚れがひどい場合は、中性洗剤に浸した布を固くしぼっておふきください。なお、シンナーやベンジンなどの揮発性溶剤は使用しないでください。文字が消えたり、ケースにシミをつけてしまう恐れがあります。

● **画面のドット欠けについて**
本商品は、非常に高度な技術を駆使して作られておりますが、画面の一部に非点灯などのドットが存在することがあります。これは故障ではありません。

● **投映中は本体に衝撃を加えないでください。**
投映中に本体に衝撃を加えると、投映が一時的に途切れた後に、画面の変色やエラーが発生することがあります。
画面が変色した場合は、本体の[INPUT]キーまたはリモコンキーで投映していた入力ソースを選択し直すと、元の色に戻ります。元の色に戻らない場合は、"電源を切るには"(J-17ページ)に従って電源を切ってから、再度電源を入れてください。
エラーが発生した場合は、"故障かな?と思ったら"(J-25ページ)をご覧いただきインジケーター表示に従って対処してください。

● **台形補正時画質について**
台形補正操作を行うと、画像が圧縮されるため、画像が乱れたり画質が低下する場合があります。その場合は"本機を設置する"(J-11ページ)で図示されている状態に設置してください。
画質を重視する場合は、台形補正機能を解除してスクリーンと本体を平行にしてご使用ください。

● **本体の移動時の注意**
動作中及び電源を切った直後は排気口及びその上面は高温になっておりますので、移動する際は、図のように必ずプロジェクターの前と後ろを持つようご注意願います。

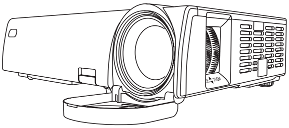


● **収納方法について**
図のように、レンズ側をバッグの取っ手側に向けて本体を収納してください。

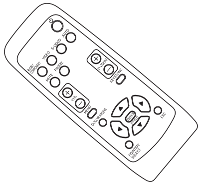


内容物のご確認

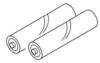
パッケージには以下の内容物が含まれていますので、ご確認ください。



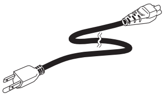
DATA PROJECTOR XJ-360



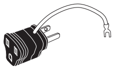
リモコン



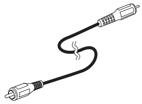
試用乾電池（単三×2本）



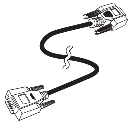
電源コード



電源プラグ変換アダプタ
(日本向けのみ同梱)



ビデオケーブル



ミニD-Subケーブル

- キャリングバッグ
- CD-ROM
- 取扱説明書（基本編）（本書）
- 「ご使用前にお読みください」
- 保証書
- ユーザー登録カード
- バーコード付きシリアルナンバーシール(2枚)

CD-ROMの取扱説明書(PDF)の使い方

付属のCD-ROMには、より詳しい操作方法を解説した「取扱説明書（拡張編）」がPDFファイル形式で収録されています。

取扱説明書（拡張編）を読むには、Adobe® Reader®が必要です。ご使用のパソコンにAdobe Readerがインストールされていない場合は、最初にAdobe Readerをインストールしてください。
Adobe ReaderはAdobe社のホームページからダウンロードできます。
URL　http://www.adobe.co.jp/

取扱説明書(PDF)を見るには

1. CD-ROMを、パソコンのCD-ROMドライブにセットしてください。

2. CD-ROMの中の「User’s Guide」フォルダを開きます。

3. 「UsersGuide_Japanese.pdf」ファイルをダブルクリックします。

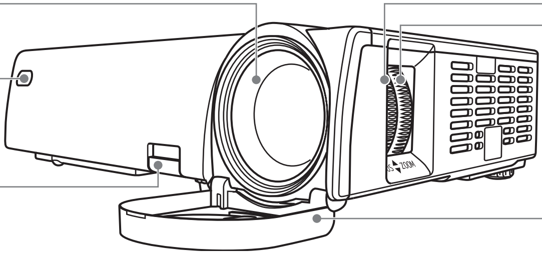
- Adobe Readerが起動し、取扱説明書が表示されます。
- ファイル名の後ろの「.pdf」は、パソコンの設定により表示されない場合があります。

本機の特長と主な機能

- **小型軽量･高輝度のデータプロジェクター：**手軽に持ち運べるA5ファイルサイズながら、明るい室内の投映にも対応する高輝度（2200ANSIルーメン）を実現しました。
- **最短0.8mからの広範囲な投映距離：**スクリーンまでの距離が十分に取れない場所にも対応する広角2倍ズームを採用。60インチの大画面も1.6mの距離から投映可能です。
- **多様な入力ソースに対応：**パソコンのRGB信号、ビデオ機器のビデオ／Sビデオ信号、コンポーネントビデオ信号（Y･Cb/Pb･Cr/Pr）の各入力ソースに対応しています。
- **自動調節機能：**自動台形歪み補正などの各種自動調節機能で、投映を補助します。
- **デジタルズーム機能：**投映中の画面の一部を拡大表示することができます。
- **ポインター機能：**リモコン操作で様々な形状のポインターを投映画面に表示可能です。

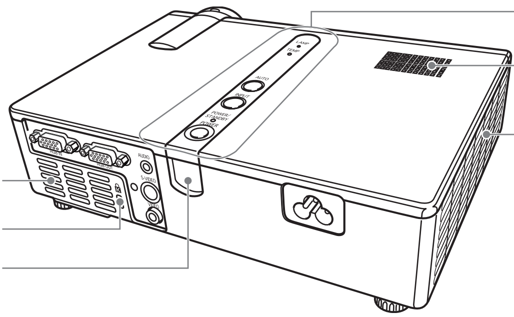
各部の名称

【前面／右側面】



⚠ 注意	● 動作中はレンズをのぞかないでください。

【上面／左側面／背面】



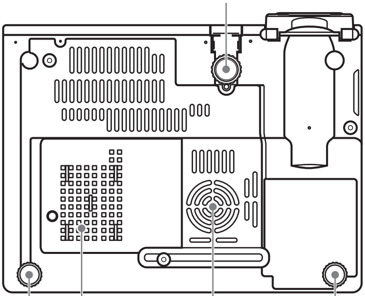
⚠ 注意	● 排気口をふさがないでください。また、30cm以内に障害物を置かないでください。内部の発熱により、火災や故障の原因となります。 ● 排気口の周辺にさわらないでください。高温のため、やけどをするおそれがあります。 ● 本体背面、および底面の吸気口をふさがないでください。内部の発熱により、火災や故障の原因となります。

メモ

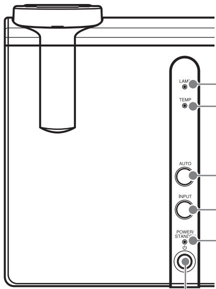
- 盗難防止用ロック穴は盗難防止用のチェーン等を取り付けるための穴です。ケンジントンロックのホームページ（http://www.kensington.com/）もご参照ください。

各部の名称

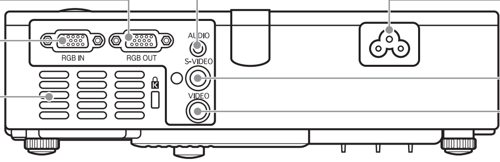
【底面】



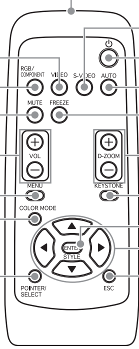
【キー・インジケーター部】



【背面部・端子】



リモコンの各キーの名称

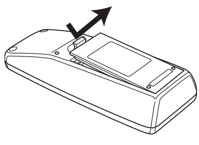


リモコンに乾電池を入れる

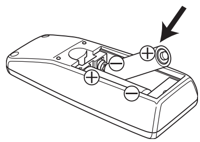
リモコンを初めて使う場合は、本機に付属の試用単三形乾電池をご使用ください。

⚠ 注意	乾電池は使い方を誤ると、液漏れによる周囲の汚損や、破裂による火災、けがの原因となることがあります。次のことは必ずお守りください。 ● 極性(＋／－の向き)に注意して正しく入れてください。 ● 新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使わないでください。 ● 種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。 ● 本機で指定されている乾電池以外は絶対に使用しないでください。

1. リモコン背面の電池ブタを外します。



2. 新しい乾電池を＋/－の向きに注意しながら取り付けます。



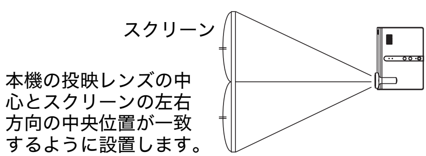
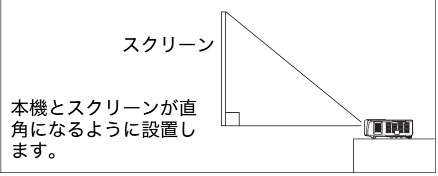
3. 電池ブタを元に戻します。

使用前の準備

本機を設置する

本機を床置きで使用される場合は、周囲に十分な余裕がある、しっかりした机や台の上などに設置してください。

● 投映するスクリーンに対して次のように設置すると、最適な映像を得ることができます。

上から見た図	横から見た図
	

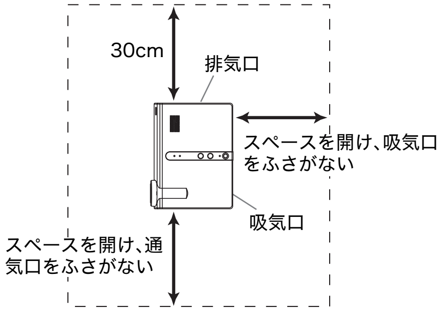
重要!

● 本機を傾けて設置する場合、水平方向より上下±30度の範囲で設置可能です。この範囲以上に傾けて設置しないでください。ランプの破裂や寿命を縮めたり、故障の原因となります。

設置場所に関するご注意

本機の性能は, 設置する環境によって影響を受けることがあります。設置場所が次の条件に合っていることを確認ください。

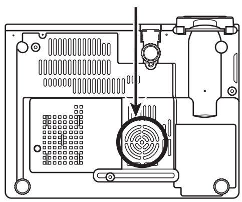
- いつでも電源プラグが抜けるよう、電源プラグに手が届く場所でお使いください。
- 下図に示す範囲には物を置かないでください。特に吸気口、排気口の周囲にはご注意ください。



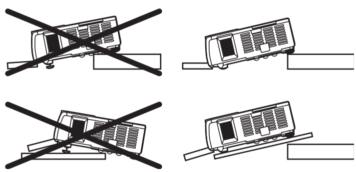
- 本機の周囲に障害物や物を置かないでください。特に排気口は、30cm以内に障害物や物を置かないでください。
- 投映中は排気口部が高温になりますので、触れないでください。また、排気口部の近くは高温になりますので、プラスチック等の高温に弱い物をそばに置いたり、下に敷いたりしないでください。変形や変色する原因となります。
- 不安定な場所や振動しやすいところは避けてください。また、じゅうたんや布団、タオルなど柔らかい物の上に置かないでください。
- 直射日光の当たる場所での使用は避けてください。
- ほこりの多い場所や多湿な場所での使用は避けてください。
- スピーカーやテレビ、ラジオなど磁気を発生する機器や暖房機器の近くでの使用は避けてください。

本機底面には、ランプの冷却のために吸気ファンが設置されています。次のことに十分注意の上、使用してください。

- 本機を使用すると、ファンの吸気口にほこりがたまることがあります。ほこりがたまると故障の原因になりますので、本機をお使いになる前に毎回ほこりがたまっていないことを確認してください。ほこりがたまっている場合は、必ずファンの吸気口を掃除し、ほこりを取り除いてからお使いください。
- 本機を設置する際には、底面吸気ファンの吸気口をふさがないように設置してください。吸気口をふさぐと、ランプの寿命を縮める原因になります。



<設置例>



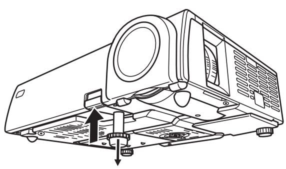
設置角度の調整

本機の設置角度(投映レンズの仰角＝投映角度)を、0度(水平)〜8度の範囲内で調整することができます。また、必要に応じて左右の傾きを微調整することもできます。

本機の設置角度を調整するには

1. 本体の手前を持ち上げて、リリースボタンを押します。

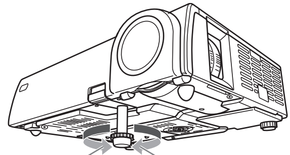
- 角度調節ノブが引き出されます。



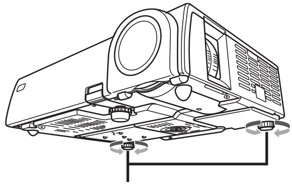
2. 角度調節ノブの長さを大まかに決めて、リリースボタンを離します。

- リリースボタンを離した位置で、角度調節ノブが固定されます。

3. 角度調節ノブを回して、本機の仰角を微調整します。



4. 左右傾き調節ノブを回して、本機の左右の傾きを微調整します。



重要!

- 角度調節ノブをしまう時は、リリースボタンを押してからノブを押し込んでください。リリースボタンを押さずに無理に押し込まないでください。

本機を天井から吊して設置する

本機は天井から吊して設置することが可能です。天井から吊して設置する場合は、本機を天地逆さまにして設置します。
詳細は、販売店にお問い合わせください。

ご注意

- 本機を、火災検知器･報知器など消防設備のある天井へ取り付ける場合、本機を消防設備からできるだけ(最低1m 以上)離してください。本機と消防設備が近いと、本機の排気により消防設備が誤動作する恐れがあります。また、蛍光灯や強い光源の近くに設置しないでください。リモコンで操作できなかったり、利用可能範囲がせまくなります。設置予定位置でのリモコン操作の可否は、必ず設置前にご確認ください。
- 本機を天井から吊して設置した場合、映像が上下左右逆になりますので、設定メニューを使った設定の変更が必要になります。詳しくは、付属のCD-ROMに収録されている取扱説明書(拡張編)をご覧ください。
- 本機を長時間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 天井から吊るして使用する場合(天吊投映をオンに設定した場合)、電源プラグをコンセントから抜かないと、電源を切っても本体内部の冷却のためファンが回転したままになりますが故障ではありません。

リアプロジェクション(スクリーン背面からの投映)について

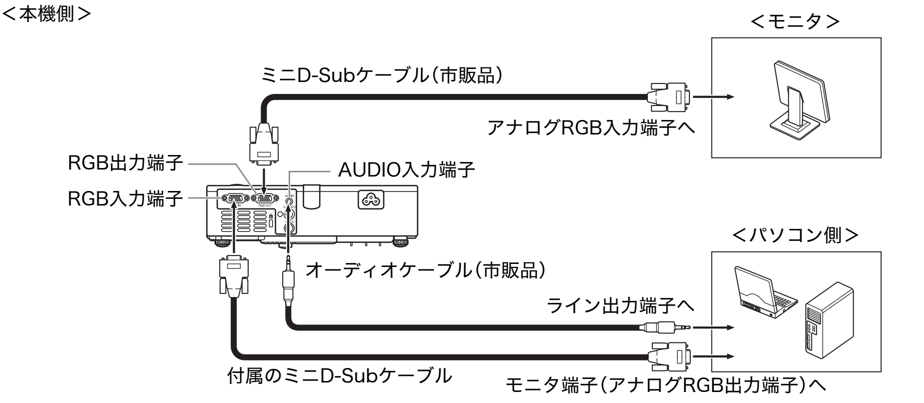
リアプロジェクションでは映像が左右逆になりますので、設定メニューを使った設定が必要になります。
詳しくは、付属のCD-ROMに収録されている取扱説明書(拡張編)をご覧ください。

パソコンとの接続

- パソコンからのビデオ出力を、本機で投映することができます。
- パソコンからのオーディオ出力を、本機のスピーカーから出力することができます。
- パソコンからのビデオ出力を、本機を経由して外部モニタにそのまま出力することができます。

重要!

- 接続する際は、本機とパソコンの電源を切った状態で行ってください。



メモ

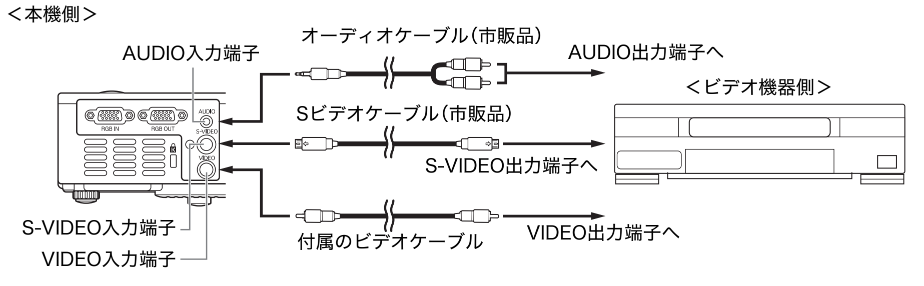
- 本機のRGB出力端子は、RGB入力端子に接続したパソコンからのビデオ入力信号（アナログRGB信号）以外の信号の出力には対応していません。

一般的なビデオ機器との接続

ビデオデッキやテレビ、ビデオカメラなど各種ビデオ機器からの映像を、本機で投映することができます。また、各種ビデオ機器からのオーディオ出力を、本機のスピーカーから出力することができます。

重要!

- 接続する際は、本機とビデオ機器の電源を切った状態で行ってください。



- 付属のビデオケーブルを使って、ピンジャック（RCA）タイプのVIDEO出力端子と接続することができます。ビデオカメラなど、特殊な形状のビデオ出力端子を備えたビデオ機器と接続する場合は、ビデオ機器に付属の専用ケーブルなどを利用して接続してください。詳しくは、接続するビデオ機器の取扱説明書を参照してください。
- 本機のVIDEO入力端子とS-VIDEO入力端子は別系統となっており、それぞれの端子に異なるビデオ機器を接続することができます。本機の操作で、入力ソースをRGB（またはコンポーネント）、VIDEO、S-VIDEOの間で随時切り替えることができます。

メモ

- 別売品のコンポーネントケーブル（YK-3）を使って、ビデオ機器のコンポーネントビデオ出力端子と本機のRGB入力端子を接続することができます。詳しくは、付属のCD-ROMに収録されている取扱説明書（拡張編）の「補足資料：コンポーネントビデオ出力との接続」を参照してください。

電源を入れる

以下の操作を行う前に、あらかじめ本機の設置およびパソコンやビデオ機器との接続を行ってください。

電源コードについてのご注意

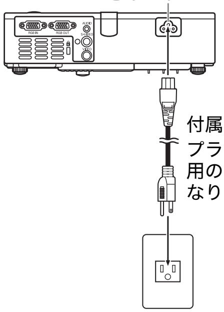
- 必ず付属の電源コードをご使用ください。
- 電源は、指定された電源電圧（日本国内では交流100V）のコンセントを使用してください。
- 他の電気機器と同じコンセントを使用しないでください。また、延長コードを使う場合は、延長コードのアンペア数値に注意してください。
- 電源コードを束ねたまま使用しないでください。
- 電源コードの上に物を置いたり、踏みつけたりしないでください。
- 電源コードを引っ張らないでください。抜くときは、電源プラグを持って抜いてください。
- 非常時に電源プラグが抜けるように、電源プラグの周りに物を置かないでください。
- 電源についてご不明な点は、お買い上げの販売店または最寄りのカシオテクノ・サービスステーションにお問い合わせください。

⚠ 注意	● 電源プラグは、必ずアース付交流100Vのコンセントに接続してください。 ● アースの接続は、必ず電源プラグをコンセントに差し込む前に行ってください。 ● アースを外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。

電源を入れるには

1. 付属の電源コードを使って、本機をコンセントに接続します。

- コンセントに接続した時点では、本機上面の3つのインジケーターすべてがオレンジ色に点灯します。しばらくするとPOWER/STANDBYインジケーターだけがオレンジ色に点灯した状態となり、その他のインジケーターは消灯します（スタンバイ状態）。
- 本機がスタンバイ状態になるまでは、[⏻]（電源）キーを押しても本機の電源は入りません。



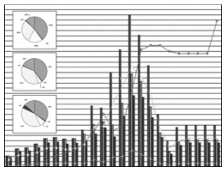
メモ （日本向けのみ）

- 2P式コンセントの場合は、同梱の「電源プラグ変換アダプタ」をご使用ください。

2. 本機と接続したパソコンやビデオ機器の電源を入れます。

3. 本機のレンズカバーが閉じている場合は、レンズカバーを開きます。

4. パソコンが完全に起動したら、本機の[⏻]（電源）キーを押します。



入力映像

- 本機のウォームアップが開始され、POWER/STANDBYインジケーターが緑色に点滅します。
- ウォームアップが完了すると、POWER/STANDBYインジケーターが緑色の点灯に変わり、接続機器からの映像が投映されます。ウォームアップの開始から、接続機器からの映像が投映されるまでの時間は、通常約60秒です。
- 本機の電源を初めて入れた場合は、「言語初期設定」画面が投映されます。J-16ページの「初回電源投入時の言語初期設定」を参照し、設定してください。

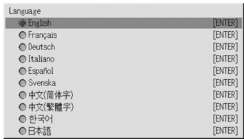
メモ

- 本機が「静音モード」に設定されている場合は、ウォームアップが開始するとLAMPインジケーターが緑色に点灯します。
- 本機の電源コードをコンセントに接続したときに、本機が高温の場合、クールダウン状態になります。
  クールダウン中はPOWER/STANDBYインジケーターがオレンジ色に点滅します。
  クールダウンが終わるまで、[⏻](電源)キーを押しても本機の電源は入りません。
  クールダウンが終わるとスタンバイ状態になり、本機の電源を入れることができます。

初回電源投入時の言語初期設定

お買い上げ後初めて本機の電源を入れると、投映画面の中央に「言語初期設定」画面が表示されます。設定メニューなどに表示する言語を選択してください。

1. カーソルキー[▲][▼]を使って、設定したい言語を反転表示状態にします。



2. [ENTER]キーを押して選択します。

パワーオンパスワードについて

本機の「パワーオンパスワード」機能を使うと、所有者以外の者による本機の不正使用を防止することができます。パワーオンパスワードを「オン」に設定すると、本機の電源を入れたときにパスワード入力画面が表示され、正しいパスワードを入力しないと本機を使用することができません。
詳しくは、付属のCD-ROMに収録されている取扱説明書(拡張編)の「詳細設定→パワーオンパスワード」を参照してください。

電源投入時の全設定初期化について

投映のしかたなど本機の各種設定は、付属のリモコンを使って「設定メニュー」(J-20ページ)を表示して行います。設定の初期化操作にもリモコンが必要ですが、お手元にリモコンがないときの非常手段として、本体のキー操作だけですべての設定を初期化することが可能です。

重要!

- 一度以下の操作を実行すると、本体操作だけで実行前の設定状態に戻すことはできません。リモコンがある場合は、通常の操作で本機の電源を入れてから、リモコンを使って個別の設定を変更してください。
- パスワード機能が「オン」に設定されている場合は、以下の操作は実行できません。
- 自動台形補正(J-19ページ)の初期設定は「オン」ですが、以下の操作により「オフ」に設定されます。
  また、台形補正(J-19ページ)は「0」に設定されます。

すべての設定を初期化して電源を入れるには

1. 「電源を入れるには」(J-15ページ)の手順1～3の操作を行います。

ご注意

- 次の手順２の操作を行った時点で、設定メニューの「投映方法」および「天吊投映」の設定が「投映方法:フロント」「天吊投映:オフ」に強制的に変更されます。手順３で「はい」「いいえ」のどちらを選択するかにかかわらず、変更後の設定が保持されますので、ご注意ください。

2. [AUTO]キーを押したまま、[⏻](電源)キーを約5秒間押し続けます。
- ウォームアップの完了後、全初期化して良いかを確認する画面が表示されます。

3. 全初期化するには[AUTO]キー(はい)を、現在の設定のままにするには[INPUT]キー(いいえ)を押します。

メモ

- 設定メニューについて詳しくは、付属のCD-ROMに収録されている取扱説明書(拡張編)を参照してください。

電源を切る

ご注意

- ウォームアップ中(POWERインジケーターが緑点滅中)は電源をオフすることはできません。
- 電源コードをコンセントから抜いた後、すぐに接続し直さないでください。コンセントから抜いて再び接続し直すまでの時間が短すぎるとエラーになる場合があります。エラーが発生した場合については、「エラー状態発生時のインジケーター表示」(☞J-25ページ)を参照してください。
- 電源を切った後しばらくは、投映用ランプ消灯後の冷却を行うためのクールダウン状態となり、すぐに電源を入れることはできません。
- 電源を切った後しばらくは、本機は熱を帯びています。すぐに本機に触れないでください。
- クールダウン後も、しばらく本機は熱を帯びています。本機をしまう場合は、ファンが停止し製品が冷えてから行ってください。
- 本機を長時間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 天井から吊るして使用する場合(天吊投映をオンに設定した場合)、電源プラグをコンセントから抜かないと、電源を切っても本体内部の冷却のためファンが回転したままになりますが故障ではありません。

電源を切るには

1. [⏻](電源)キーを押します。
- 「電源をオフしますか？」という確認メッセージが投映画面の中央に表示されます。
- 電源を切らない場合は、約10秒間放置してください。確認メッセージが消え、投映が継続されます。[ESC]キーを押した場合も、確認メッセージは消えます。

2. メッセージの表示中に[⏻](電源)キーを押して電源を切ります。
- 本機の投映ランプが消灯し、投映映像が消えます。
- POWER/STANDBYインジケーターがオレンジ色の点滅を開始します(クールダウン中)。
- クールダウン中は、再び電源を入れることはできません。
- クールダウンが完了すると、POWER/STANDBYインジケーターがオレンジ色に点灯し(スタンバイ状態)、必要に応じて再度電源を入れることができます。

3. クールダウンが完了したのを確認し、電源プラグをコンセントから抜きます。
- POWER/STANDBYインジケーターが消灯します。

4. パソコンやビデオ機器の電源を切り、本機と接続したケーブルを抜きます。

5. レンズカバーを閉じます。
※レンズカバーを閉じる際は、レンズが突き出していない状態で閉じてください。

オートパワーオフについて

選択されている入力ソースへの入力信号がなく、一定時間操作しないと、本機の電源は自動的に切れます。この機能を「オートパワーオフ」と呼びます。電源が切れるまでの時間は、最後に操作を行った時点または入力信号がなくなった時点から、約30分です。オートパワーオフによって電源が切れた場合も、[⏻]（電源）キーを押して電源を切った場合と同様に、クールダウン状態となります。

各種の投映操作

投映の各種応用操作について詳しくは、付属のCD-ROMに収録されている取扱説明書（拡張編）を参照してください。

スクリーンに投映する

入力ソースの自動検索について

本機の電源を入れると、以下の順で入力ソースの状態（各入力端子への入力信号があるかどうか）をチェックし、最初に入力信号が見つかった入力ソースを選択して投映を行います。

RGB端子への入力（RGB/コンポーネント） → VIDEO端子への入力（VIDEO） → S-VIDEO端子への入力（S-VIDEO）

入力ソースを選択する

本体のキーを使う場合と、リモコンのキーを使う場合では操作が異なります。

- 本体のキーを使って入力ソースを切り替えるには、[INPUT]キーを押します。キーを押すごとに、次のように入力ソースが切り替わります。

（RGB/コンポーネント） → （VIDEO） → （S-VIDEO） →（RGB/コンポーネント）に戻る

- リモコンのキーを使って入力ソースを選択する場合は、入力ソースに対応したキー（[RGB/COMPONENT]キー、[VIDEO]キー、[S-VIDEO]キーのいずれか）を押すことで、直接入力ソースを選択できます。

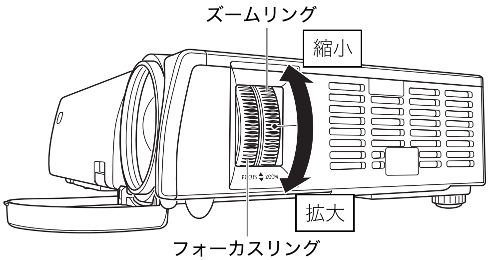
現在選択されている入力ソースが、投映画面の右上に表示されます。

重要!

- 入力信号が確定されるまで（サーチ中）は、ケーブルを接続したり、キーの操作は行わないでください。

投映サイズとフォーカスを調節する

ズームリングとフォーカスリングを使うことで、投映サイズの調節とフォーカス調節（ピント合わせ）を行うことができます。（静止画を投映して調節することをおすすめします。）



RGB入力の映像の自動調整について

入力ソースを切り替えてRGB（パソコンからの入力）を選択した際や電源投入時などに、本機がRGB信号を検出すると、投映映像の垂直／水平位置、周波数、位相を自動的に調整します。また、入力ソースとしてRGBが選択された状態では、[AUTO]キーを押して自動調整を実行することができます。

メモ

- 手動で調整した値を保持したい場合は、設定メニューの「詳細設定→高度な設定1→自動調整」をオフにしてください。
- 自動調整中は画像が乱れることがあります。
- 自動調整を行っても、位置がずれていたり映像が乱れる場合は、設定メニューを使って手動で調整を行ってください。

台形歪みを補正する（KEYSTONE）

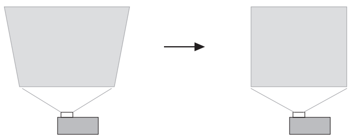
本機と投映するスクリーンの角度によって、投映映像が歪み、長方形にならない場合があります。本機はこの「台形歪み」を、自動または手動で補正する機能を備えています。

重要！

- 台形補正が行われた投映画面は、スクリーンに対する投映角度によって小さくなったり、画質が乱れることがあります。投映画面が見づらい場合は、スクリーンに対する本機の設置位置を、可能な限り「本機を設置する」（J-11ページ）で図示されている状態に近くなるようにしてください。
- 横方向の台形歪みは補正できません。本機の投映レンズの中心とスクリーンの左右方向の中央位置が一致するように設置することをお勧めします（J-11ページ）。

自動台形補正について

自動台形補正機能は、縦方向の台形歪みを自動的に調節するもので、本機の縦方向の傾きを変更しても、投映映像が長方形になるように自動的に補正が行われます。自動台形補正が行われると、投映画面の中央下に「自動台形補正が行われました」と表示されます。



メモ

- 自動台形補正は本機の傾きを検出して行うため、投映するスクリーンや壁面などが地面に垂直な場合に限り有効です。傾いたスクリーンなどに投映する場合は、手動で台形補正を行ってください。

手動で台形補正を行うには

1. [KEYSTONE]キーを押します。
- 投映画面上に「台形補正」画面が表示されます。

2. [◀]キー／[▶]キーを押して補正を行います。

3. 設定画面を消すには、「閉じる」にカーソルを移動し[ENTER]キーを押します。
- [ESC]キー（または[KEYSTONE]キー）を押しても、設定画面を消すことができます。

設定メニューについて

投映中に、[MENU]キーを押して投映画面に表示される「設定メニュー」を使って、本機のさまざまな基本設定を行うことができます。
カーソルキー([◀][▶][▲][▼])と[ENTER]キーを使って、項目の選択や設定を行ないます。

設定（または表示）が可能なメニュー項目は、投映中の入力ソースによって異なります。下表の「入力ソース」欄はR=RGB入力、C=コンポーネント入力、S=S-VIDEO入力、V=ビデオ入力、無=入力信号なしを表し、○は設定（または表示）可、×は不可を示しています。また△は、設定（または表示）が可能だが制約があることを示しています。

メインメニュー	入力ソース				
サブメニュー	R	C	S	V	無
映像調整					
明るさ	○	○	○	○	×
コントラスト	○	○	○	○	×
シャープネス	○	○	○	○	×
色の濃さ	×	○	○	○	×
色合い	×	○	△	△	×
カラーモード	○	○	○	○	×
カラーバランス	○	○	○	○	×
映像調整の初期化	○	○	○	○	×
信号調整					
垂直位置	△	×	×	×	×
水平位置	△	×	×	×	×
周波数	△	×	×	×	×
位相	△	×	×	×	×
ノイズフィルタ	△	×	×	×	×
信号調整の初期化	△	×	×	×	×
画面設定					
台形補正	○	○	○	○	○
アスペクト比	×	△	○	○	×
全画面表示	○	×	×	×	×
投映方法	○	○	○	○	○
天吊投映	○	○	○	○	○
画面設定の初期化	○	○	○	○	○
詳細設定					
音量	○	○	○	○	△
ポインター	○	○	○	○	○
静音モード	△	△	△	△	△
パワーオンパスワード	○	○	○	○	○
パスワードの変更	○	○	○	○	○

メインメニュー	入力ソース				
サブメニュー	R	C	S	V	無
詳細設定					
高度な設定1					
自動入力検索	○	○	○	○	○
自動台形補正	△	△	△	△	△
自動調整	○	×	×	×	△
メッセージ表示	○	○	○	○	○
スタート画面	○	○	○	○	○
無信号時画面	○	○	○	○	○
高度な設定2					
オートパワーオフ	○	○	○	○	○
RGB入力	○	○	×	×	△
ビデオ信号	×	×	×	○	△
Sビデオ信号	×	×	○	×	△
画質補正1	○	○	○	○	×
画質補正2	○	○	○	○	×
言語	○	○	○	○	○
詳細設定の初期化	○	○	○	○	○
情報					
ランプ使用時間	○	○	○	○	○
入力信号	○	○	○	○	○
信号名	○	○	○	○	×
解像度	○	×	×	×	×
水平周波数	○	○	○	○	×
垂直周波数	○	○	○	○	×
走査方式	○	○	×	×	×
全初期化	○	○	○	○	○
ランプ使用時間の初期化	○	○	○	○	○

各設定項目の詳細や、設定の操作については、付属のCD-ROMに収録されている取扱説明書（拡張編）を参照してください。

メンテナンスについて

クリーニングについて

重要!

- 本機のクリーニングは、必ず電源を切った状態で行ってください。

本機外部/レンズ/吸気口/排気口は、定期的にクリーニングしてご使用ください。クリーニングの仕方については、取扱説明書(拡張編)の「補足資料:クリーニングについて」を参照してください。

レンズカバーが外れてしまったら

レンズカバーが外れてしまった場合は、取扱説明書(拡張編)の「補足情報:レンズカバーが外れてしまったら」を参照して取り付けてください。

ランプの交換について

⚠ 注意	交換時期を超えて使用すると、ランプが破裂する可能性が高くなります。交換メッセージが表示されたら、速やかに新しいランプと交換してください。

- 光源用ランプは消耗品です。ランプの寿命は2000時間です。交換表示は2000時間でメッセージが出ますが、ランプの特性や使用環境により、メッセージが出る前に暗くなったり、点灯しなくなることがあります。

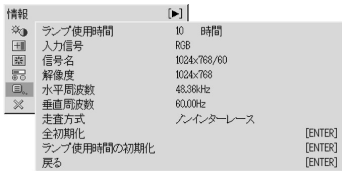
ランプ使用時間の確認

ランプの累積使用時間を、設定メニューで確認することができます。

1. [MENU]キーを押して、設定メニューを表示します。

2. [▼]キーを押して、メインメニューの「情報」を選択します。

- 設定メニュー画面の右側に、ランプ使用時間が表示されます。



3. 設定メニューの操作を終了するには[MENU]キーを押します。

ランプの交換時期について

ランプの累積使用時間が2000時間を超えると、LAMPインジケーターが赤点滅し、次のようなメッセージが表示されます。

ランプの交換時期です。取扱説明書に従い早めに交換してください。

このメッセージが表示された場合は「ランプの交換」(☞J-22ページ)に従って、お早めにランプの交換を行ってください。
(なお、このメッセージは、電源オン時に約10秒間表示されたのち消えますので、その後は通常通り本機を使用できます。)
このメッセージが表示されてもランプの交換を行わずに100時間を超え使用を続けた場合、LAMPインジケーターが赤点灯し、次のようなメッセージが表示され約10秒後にOFF状態となります。

ランプ寿命を超過しています。ランプを交換するまで電源が入りません。

このメッセージが表示された場合は「ランプの交換」(☞J-22ページ)に従って、速やかにランプ交換を行ってください。

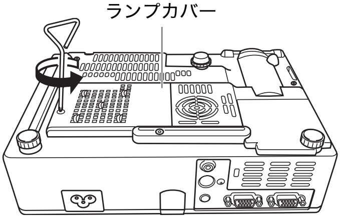
ランプの交換

⚠ 注意	● 本機の使用中はランプやランプの周辺が非常に高温になります。本機の電源を切り、クールダウン（POWER/STANDBYインジケーターがオレンジ点滅）後、本機から電源コードを取り外し、本機を60分以上放熱させた後、ランプの交換を行ってください。動作中や停止直後は、ランプやランプの周辺が高温のため、触れるとやけどをするおそれがあります。 ● ランプを交換する際は、必ず本機専用のランプカートリッジ（YL-31、別売品）をご使用ください。指定のランプ以外は使用しないでください。 ● プロジェクターの光源には、内部圧力の高い水銀ランプを使用しています。ランプは、衝撃やキズ、使用時間の経過による劣化などにより、大きな音をともなって破裂したり、不点灯状態になることがあります。また、ランプの個体差や使用条件によって大きな差があります。 ● ランプカートリッジのガラスの部分に手で触れないでください。ランプの破裂や寿命が短くなる原因となります。 ● ランプ破壊時には、ランプハウス内にガラスの破片が飛び散ったり、ランプ内部のガスが本機の吸気口／排気口から排出されることがあります。ランプ内部に含まれているガスは、水銀が含まれていますので、破裂した場合は十分な換気を行ってください。ガスを吸い込んだり、目に入った場合は、速やかに医師にご相談ください。 ● 万一ランプが割れた場合は、ガラスの破片でけがなどをしないようにご注意ください。万一ランプが割れた場合は、ご自分でランプ交換を行わずに、販売店または最寄りのカシオテクノ・サービスステーションに修理をご依頼ください。 ● ランプは水銀物質を使用しています。ご使用後のランプは、各自治体の規制に従い廃棄してください。

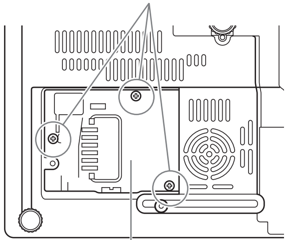
ランプを交換するには

ランプ交換を行う際は、交換用ランプ（別売品）に同梱の専用ドライバーをご使用ください（本機にはドライバーは付属していません）。

1. 本機の電源を切り、電源コードを取り外します。
2. 本機のランプが完全に放熱するまで放置します（約60分）。
3. 本機の底面を上にして、机の上など安定した場所に置きます。
4. ランプカバーのネジをゆるめ、ランプカバーを取り外します。

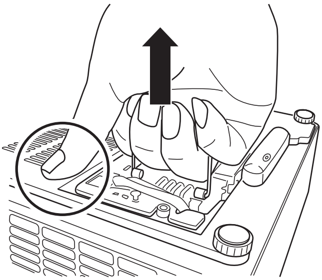


5. ランプカートリッジの3箇所のネジをゆるめます。



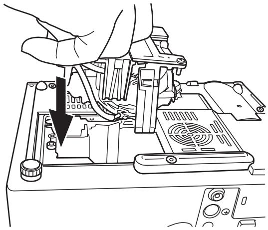
6. ランプカートリッジの取っ手を起こし、ランプカートリッジを引き抜きます。

- 図のように親指で本体を押さえながら、ランプカートリッジのレバーをゆっくり引き抜いてください。



7. 新しいランプを、図のように方向を合わせて奥まで差し込みます。

- 差し込み後、取っ手はランプ側に(手順5イラストの状態になるように)倒してください。



ご注意

- ランプ(ガラス部分)には、手で触れないようにご注意ください。ランプの破裂、寿命が短くなる原因となります。

8. ランプカートリッジの3箇所のネジを締めます。

9. ランプカバーを元の位置に取り付け、ネジを締めます。

- この後引き続き、「ランプ使用時間の初期化」の操作を行ってください。

ランプ使用時間の初期化

ランプ使用時間の初期化操作は、ランプ交換を行った時期により異なります。

ランプの交換時期です。取扱説明書に従い早めに交換してください。

このメッセージが表示された後で、下記のメッセージが表示されないうちにランプ交換を行った場合は、「ランプ使用時間を初期化するには」を参照してください。

ランプ寿命を超過しています。ランプを交換するまで電源が入りません。

このメッセージが表示された後でランプ交換を行った場合は、「ランプ寿命を超過した場合のランプ使用時間の初期化について」を参照してください。

ランプ使用時間を初期化するには

1. 本機の電源を入れます。
2. [MENU]キーを押して、設定メニューを表示します。
3. [▼]キーを押してメインメニューの「情報」を選択し、[▶]キー(または [ENTER]キー)を押します。
4. [▼]キーを使って「ランプ使用時間の初期化」を選択し、[ENTER]キーを押します。
   - 「ランプ使用時間を初期化しますか?」というダイアログが表示されます。
5. [▲]キーを押して「はい」を選択し、[ENTER]キーを押します。
   - ランプ使用時間が初期化され、「0時間」になります。
6. 設定メニューの操作を終了するには[MENU]キーを押します。
   - 設定メニューが投映画面から消えます。

ランプ寿命を超過した場合のランプ使用時間の初期化について

ランプ寿命を超過してからランプ交換を行った場合は、本機の電源が入らないため設定メニューによる操作を行うことができません。この場合は、次の操作によりランプ使用時間の初期化を行ってください。

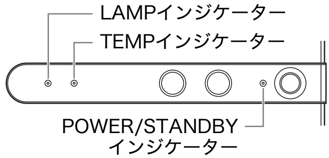
ランプ寿命が超過した後にランプ使用時間を初期化するには

1. 付属の電源コードを使って、本機をコンセントに接続します。
   - 接続すると本体上面のPOWER/STANDBYインジケーターとLAMPインジケーターが赤色に点灯します(ランプ寿命超過状態)。
2. 本体の[AUTO]キーを押しながら、[INPUT]キーを約5秒間押し続けます。
   - ランプ使用時間が初期化されると、POWER/STANDBYインジケーターが赤色の点灯からオレンジ色の点灯に変化し、同時にLAMPインジケーターが消灯します。
3. [⏻](電源)キーを押して、本機の電源が入るのをご確認ください。

故障かな？と思ったら

インジケーター表示と警告音について

本機の状態を、上面の各インジケーターの色や点灯／点滅状態によって判別することができます。本機の正常時、エラー時のそれぞれの状態でのインジケーター表示、およびエラー時の警告音について説明します。
- 表中の「POWER」はPOWER/STANDBYインジケーターを表しています。



正常時のインジケーター表示

インジケーター表示	本機の状態
POWER　:オレンジ点灯 TEMP　:オレンジ点灯 LAMP　:オレンジ点灯	本機の電源コードをコンセントに接続した直後です。スタンバイ状態（下記参照）になるまでは、本機の電源を入れることはできません。
POWER　:オレンジ点灯	本機の電源コードがコンセントに接続されており、スタンバイ（待機）状態です。
POWER　:緑点滅	本機の電源を入れた直後のウォームアップ中です。
POWER　:緑点灯	本機の電源が入り、使用可能な状態です。
POWER　:オレンジ点滅	本機の電源を切った直後のクールダウン中です。また、本機の電源コードをコンセントに接続したときに本機が高温の場合もこの状態になります。
LAMP　:緑点灯	本機が静音モードに設定されています。

エラー状態発生時のインジケーター表示

- 警告音欄の「○」は、エラーの発生時に「ピー、ピー、ピー、ピー」という感じの警告音が鳴ることを表しています。「△」は、エラーの発生時に「ピピッ、ピピッ」という感じの警告音が鳴ることを表しています。
- エラーが発生して電源コードを取り外す際には、クールダウン後ファンが停止してから行ってください。ファンが回転中に電源コードを取り外し、再度電源コードを接続した場合エラーから復帰できないことがあります。
- 電源コードを取り外し、再度電源コードを接続する際には、約10秒間放置してから行ってください。

インジケーター表示／警告音	本機の状態と対処
POWER　:オレンジ点滅→赤点灯 TEMP　:赤点灯 警告音　:○	外部からのノイズなどの要因による誤動作が考えられます。 POWER/STANDBYインジケーターが赤点灯に変わり、ファンが停止したら本機から電源コードを取り外し、インジケーターが消えたら、電源コードを接続して再度電源を入れてください。電源を入れ直してもエラーになる場合は、お買い上げの販売店または最寄りのカシオテクノ･サービスステーションにお問い合わせください。
POWER　:赤点灯 TEMP　:赤点灯 警告音　:なし	電源コードをコンセントから抜いた後、すぐに接続し直した場合や、外部からのノイズなどによる誤動作が発生した場合などがに発生するエラーです。 POWER/STANBYインジケータとTEMPインジケータが赤点灯に変わり、ファンが動作し続けます。このような場合はそのまま約90秒待ち、本機から電源コードを取り外します。インジケーターが消えたら、約10秒間放置後に電源コードを接続し直して、再度電源を入れてください。再び同じエラーが発生する場合は、お買い上げの販売店または最寄りのカシオテクノ･サービスステーションにお問い合わせください。
POWER　:オレンジ点滅→赤点灯 TEMP　:赤点滅（0.5秒周期） 警告音　:○	ファンに異常が発生しました。 POWER/STANDBYインジケーターが赤点灯に変わり、ファンが停止したら本機から電源コードを取り外し、インジケーターが消えたら、電源コードを接続して再度電源を入れてください。電源を入れ直してもエラーになる場合は、お買い上げの販売店または最寄りのカシオテクノ･サービスステーションにお問い合わせください。

インジケーター表示／警告音	本機の状態と対処
POWER :オレンジ点滅→赤点灯 TEMP :赤点滅（1秒周期） 警告音 :○	内部が極端に高温になったため、電源が自動的に切れました。次の操作を行ってください。 ① POWER/STANDBYインジケーターが赤点灯に変わったのを確認して本機から電源コードを取り外し、約60分本機を放熱させる。 ② 本機の吸気口／排気口がふさがれていないか、本機の周囲のスペースが十分に確保されているか確認する。 ☞ 設置場所に関するご注意（J-12ページ） ③ 本機の吸気口/排気口にほこりがたまっていたら掃除する。 ☞ クリーニングについて（付属のCD-ROMに収録の取扱説明書（拡張編）を参照）。 ④ 電源コードを接続して、再度電源を入れる。
POWER :オレンジ点滅→赤点灯 TEMP :赤点滅（0.5秒周期） LAMP :赤点滅（0.5秒周期） 警告音 :○	ランプ異常が発生したため、電源が自動的に切れました。 POWER/STANDBYインジケーターが赤点灯に変わったのを確認して一度電源コードを取り外し、接続し直してから、再度電源を入れてください。電源を入れ直してもエラーになる場合は、本体が冷めてからランプが破損していないか確認してください。ランプに異常がない場合は、お買い上げの販売店または最寄りのカシオテクノ・サービスステーションにお問い合わせください。
POWER :オレンジ点滅→赤点灯 TEMP :オレンジ点滅 警告音 :○	ランプカバーが開いているため、電源が自動的に切れました。次の操作を行ってください。 ① POWER/STANDBYインジケーターが赤点灯に変わったのを確認して本機から電源コードを取り外し、約60分間本機を放熱させる。 ② ランプカバーを閉じる。 ☞ ランプを交換するには（J-22ページ） ③ 電源コードを接続して、再度電源を入れる。
POWER :オレンジ点滅→赤点灯 TEMP :赤点滅（2秒周期） 警告音 :○	本機内部のメモリエラーが発生しました。 POWER/STANDBYインジケーターが赤点灯に変わったのを確認して一度電源コードを取り外し、約10秒間放置後に接続し直してから、再度電源を入れてください。電源を入れ直してもエラーになる場合は、本機から電源コードを取り外し、約60分間本機を放熱させた後で、お買い上げの販売店または最寄りのカシオテクノ・サービスステーションにお問い合わせください。
POWER :緑点灯 LAMP :赤点滅（1秒周期） 警告音 :△	ランプの交換時期です。「ランプの交換について」（☞J-21ページ）を参照してランプの交換を行ってください。
POWER :オレンジ点滅→赤点灯 LAMP :赤点灯 警告音 :○	ランプ寿命を超過しており、本機の電源が入らない状態です。「ランプの交換について」（☞J-21ページ）を参照してランプの交換を行ってください。

本機のトラブルと対処について

本機の使用中に何らかのトラブルが発生した場合は、故障とお思いになる前に、付属のCD-ROMに収録されている取扱説明書（拡張編）の「本機のトラブルと対処について」を参照してご確認ください。

製品仕様

モデル名		XJ-360
投映方式		DLP(DMD単板方式)
DMD	サイズ	0.7型
	画素数	XGA(1024×768)
投映レンズ		手動/光学ズーム(×2)、手動フォーカス F ＝ 2.0 ～ 2.8　f ＝ 20 ～ 40mm
光源		200W高圧水銀ランプ
RGB入力端子		RGBミニD-Sub 15ピン×1 (コンポーネント信号入力端子と共用)
RGB出力端子		RGBミニD-Sub 15ピン×1
VIDEO入力端子		RCAピンジャック×1
S-VIDEO入力端子		ミニDIN4ピン×1
音声入力端子		ステレオミニジャック×1
音声出力		1W　モノラル
使用環境		動作温度:5 ～ 35℃ 動作湿度:20 ～ 80%(ただし結露しないこと)
電源		AC100～240V、50／60Hz、3.1A～1.3A
外形寸法		230 (幅)×55 (高)×171 (奥行) mm(突起部含まず)
質量		約1.8kg

※ 改良などのため、仕様は予告なく変更されることがあります。